

## IV-JAPAN

NEWS [NO.17] 2013.3.31 発行



25 周年記念行事会場にて。ラオス駐日大使(中央)を囲む冨永代表(左隣)、藤田理事(右隣)ラオス留学生、IVユースメンバー

## 創立 25 周年記念行事・ラオス事業報告会

~去る2月23日板橋区の資生堂美容技術専門学校に於いて当会創立25周年行事が行われました~

#### —IV-JAPAN 代表·冨永幸子挨拶—

1988年に「国際ボランティアの会」を立ち上げました。私の原点は実践教育を重んじるガールスカウトです。1980年にタイのガールスカウト連盟のカノック会長(当時タイの国会議員)にお会いし、その縁で貧しい農村の子供たちのために奨学金を日本から送ることとなりました。

1990年からタイの子供たちに奨学金を支給し、皆様のご協力で現在までにラオスの子供たちも含め約8,000人に支給することができました。そして1994年からは隣の最貧国ラオスで事業を開始しました。創立から25年が過ぎましたが、縫製、調理、理美容および木工家具の職業訓練を通して、約2,000人のラオス女性・青年の人材育成ができましたことは本当にうれしいことです。アジアでIVが必要とされるなら挑戦し続けたいと思っています。

本当に本当に皆様のご支援でここまで続けてこられ たのだと思います。感謝致します。

30周年にも皆様に良いご報告ができますようにどうぞこれからも応援を宜しくお願いいたします。

#### ―ラオス大使ご祝辞―

ラオス大使館を代表して、国際協力 NGO・IV-JAPAN 設立 25 周年のお祝いを申し上げる事ができ、大変 光栄に思いますと同時に心より祝意を申し上げます。また、長年にわたり貴会がラオスでラオスの発展、特に教育の向上及び人材育成に寄与なさったことを衷心より感謝申し上げます。貴会の献身的努力により、ラオス政府は 2015 年までの国連ミレニアム開発目標が達成され、2020 年までに最貧国より抜出することが出来るものと確信しております。今一度、この特別な機会に貴会と日本の皆様方、とりわけ貴会のドナーの皆様方のラオスへの多大なご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。また富永代表を始め、貴会のメンバーの方々のご健康、ご多幸と尊い事業のご成功をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

駐日本ラオス国特命全権大使 ケントン・ヌアンタシン



目 次

1分~4分····創立25周年記念行事特集 5分····認定NPO取得報告、SIA事業報告、

6分····外務省日本NGO連携無償資金協力事業

JICA草の根パートナー事業

7ॗ⋯夢屋マイクロファイナンスローン、千客万来

8分…カノック奨学金ニュース・ドナー紹介

9分…タイニュース

10~11分…幸子のラオス便り

12分…寄付者一覧

#### --25 周年行事実行委員長·池田敏秀挨拶---

人間にはYesから入る人とNoから入る人がいる。前者は一見損ばかりしそうだが、実はそうではない。いかに危げな発想であっても、そこに心意気がある限り、それを心配してくれる多くの善意の人が可能にしてしまうのである。IV-JAPANの25年の歴史はまさにそうであったかのように思う。

今回も善意の人が集まった。資生堂は場所と技術とスタッフを提供してくれたし、多くの大学生やラオス人留学生も積極的に参加してくれた。重鎮の理事さんたちはショーのために自慢の民族衣装を貸してくれた。実行委員長が何もしなくても、会場は見事に運営され、最後はラオビールがしっかり手配されていた。新たに発足した I Vユースも大きな波紋を放った。学生たちのリポートは純粋で秀逸だったし、大学生や子供のウォーキングは楽しかった。プロより感動的だった。

さて 26 年目からの I Vの活動だが、手弁当の時代は決して終わっていないと思う。一気に若手が加わり、これから活動内容にも変化が生じると思うが、企業の C S R とは明らかにちがう秘伝のタレがあるはずである。重鎮と新参が混ざり合い、新しいハイブリッドな価値を創っていく、そんな時代が来たと 2 5 周年記念のステージを見ながら思った。



埼玉県国際課長・矢嶋行雄氏による祝辞



映像による IV 活動紹介

埼玉 NGO ネット事務局長 加藤陽一

2月23日(土)、IV-JAPANの25周年記念事業の簡単にまとめた参加報告をします。参加者約160名。

#### 来賓

- ・来賓は、駐日ラオス国特命全権大使、埼玉県国際課長、埼玉県国際交流協会事務局長、さいたま市水道局参事、倫理研究所、JICA地球ひろば、東京ウィルライオンズクラブ(出席者氏名略)。他に祝電あり。
- ・来賓挨拶は2名。ラオス大使はIV-JAPANの長年のラオス支援成果として、ラオス地方住民の生活改善を通じてラオス政府の開発目標であり国際公約であるMDGs(国連開発目標)へ大きな貢献をされた事。また日本のラオス文化の理解促進、ラオスと日本の交流増進の3点を挙げ、ラオス政府としてIV-JAPANを高く評価しており、今後の活動に大きな期待を寄せているとの事。埼玉県国際課長は埼玉県が推進している埼玉アジア・プロジェクトの一環として、県とIVが連携してJICA支援を得てラオスで開発協力プロジェクトを計画しているとの事など。通訳は東京電機通信大学ラオス人留学生。

#### 活動報告

- ・25 年の歩みは、IV ユースの東京外国語大学ラオス語学科学生柳沢美竣さんが映像製作したもの。前半は、NHK プロジェクト X のテーマに乗せて冨永代表のガールスカウト、海外協力の始まり、ラオスでの活動拡充の歩み。後半はオリンピック応援歌にもなった栄光の架け橋をバックに IV 職業訓練生のその後の起業、就職による生活改善の本人インタビュー。バックの音楽と映像の組み合わせが絶妙で、若い世代の表現力に感心。
- ・国内ドナー紹介の前半は、別の IV ユースの東京外語大ラオス語学科学生野田葵さんが地方の支援者個人を 訪ねて、支援のきっかけ、継続してきた理由、今の思いなどを上手に引き出し、国際協力の基本的精神で締



創





めくくる構成で、若い感性にまた感心。後半は、会場に来ている支援者(伊藤裕子文京学院大学教授、富山県の20年支援継続者大野宏江氏)インタビュー。スタディツアーで支援を確認し納得してきた事が継続となったとの事。来場している多くの支援者に自分の支援を確認させ、同じ思いを共有させる。

・IV ユースが新たに発足した事を早稲田大学学生坂倉康平が紹介。IV に集いラオスのために活動ースタディッアー、インターン、イベント運営、開発協力プロジェクトへの参加などを行う。若い力を感じる。これからの活動が期待されると共に、学生主体の組織である事からメンバー更新による継続が課題となろう。

### ファションショー・民族舞踏・キム演奏

IV 副代表が元資生堂執行役員(企業文化人)であり、IV がラオスで行う美容職業訓練や地元産シルクを活用した化粧品ポーチやラオスの花梨材を使用した化粧品陳列棚の開発に(株)肌箋舎が協力している。企業の本業を活した職業訓練と受講生への起業・就業への支援まで、NGOと企業の連携の好例。 以上

即売(①、②)









ラオス民族舞踊(③、④





ラオス民族衣装を 着て颯爽とファッ ションショー。子 どもから大人まで モデル歩きを披 <mark>露しました</mark>。

(5, 6, 7, 8)



★皆さまとても 輝いていました★





## < 職業訓練生の軌跡 > • • • 25 周年記念行事会場で上映しました動画の IV 職業訓練所の卒業生へのインタビューを抜粋・掲載します。(IV ユース・IV インターン 柳澤 美竣)



## 名前 クン 年齢 24歳 **卒業年** 2011年 縫製店起業

●訓練生の時、初めてお客様にズボンを作った時うまくできるか不安でしたが、お客様に出来上がりを褒めて頂きとてもうれしかった事が印象に残っています。卒業し、将来について悩んでいましたが IV のミシンローンを組むことが出来、そのおかげでビジネスを始められ、ローンを無事返納することも出来ました。今は月収約6万円もあります。



#### 名前 ブン 年齢 32 歳 **卒業年** 2004 年 美容院起業

●訓練所では沢山の知識を身につけました。美容に関する技術だけでなく、お客様の対応の仕方やカスタマーサービスを学びました。おかげで美容院を開く事ができ、月収15万円にもなり子ども2人の教育も十分出来ます。

私が大事にしている事は訓練所で学んだようにお店の中をいつ も清潔感あふれるようにする事です。また、お客様に対してより 良いサービスを提供する事を心がけています。



## **名前** ノイ **年齢** 29 歳 **卒業年** 2004 年 **就職先** IV-JAPAN **役職** 0JT (上級コース) マネージャー

●カスタマーサービスのレクチャーや、時には調理の先生もします。 初・中級コースでは技術訓練は行いますが、学んだ事のないカス タマーサービスなど OJT の訓練生に最初のおよそ1ヶ月間は手取 り足取り指導します。在学生には常に好奇心を持ち真面目に一生 懸命頑張る事を伝えたいです。

職業訓練の機会を与えていただいて、私を含め多くの職に就けない若者が起業や就職する事が出来ました。卒業生を代表して、富永幸子さん、日本国民の皆さま、

IV-JAPANに寄付をしてくださるドナーの方々に感謝致します。ありがとうございました。

## \* \* \* \* \* \* \* \*

## <25年の重みを思う> 一創立 25 周年に寄せて-

思い起こせば、IV-JAPANの前身である「国際ボランティアの会」が発足した 1988 年は、日本がバブル景気に沸いていた時期でした。あれから 25 年、人の年齢が重ねられただけでなく、日本も世界もすっかり様変わりしました。日本のODAがアメリカに続いて第 2 位だったのが今や第 5 位。ベルリンの壁崩壊から早 24 年。多くの新しい独立国家が生まれ、世界の国の数も 193 か国に。また、急速な中国の台頭等々、枚挙にいとまがありません。



私は、当会がNPO法人として再出発する 2003 年まで事務局長として会の運営や活動のお手伝いをさせていただきました。初めてタイを訪れたのが 1994 年、ラオスには 1998 年でしたが、その後も訪れる度に経験した衝撃や感動、新たな気づき、様々な思い等が、その後の私の価値観や人生に大きな影響を及ぼしてきました。当NGOは、タイ・ラオスへの国際協力という使命を遂行すると同時に、日本人の開発途上国に対する認識や人生観を変えること(開発教育)でも、大きな役割を果たしてきたということです。

その後、タイは目覚ましい発展を遂げ中進国となり、知られざる国であったラオスも着実に認知度を増してきているようです。どの国やどの会にも問題や課題が絶えることはないと思いますが、改めてこのように25年間の重みを感じさせられている今日この頃です。冨永代表の尽きることのない情熱と前向きな姿勢が、このNGOをかくも長年にわたり維持し得てきたものと心から敬意を表すると同時に、今なお傍にあって支え続けていらっしゃる様々な方々の力の大きさをも改めて認識させられているところです。更なる会の存続と発展を、陰ながら応援させていただきます。 「埼玉NGOネット」副代表 尾嶋 佐和子

## IV-JAPAN 認定 NPO 法人取得

IV-NEWS16号で IV-JAPAN が認定 NPO 法人申請を提出したことお知らせしましたが、この度、さいたま市より認定され、「特定非営利活動法人国際協力 NGO・IV-JAPAN」は 2013年4月1日より「**認定**特定非営利活動法人国際協力 NGO・IV-JAPAN」となります。

参考までに下表は現在の NPO 法人の認証及び認定取得の現況です。

①NPO 法人数(2013年2月28日現在、内閣府)

②認定 NPO 法人数 (2013 年 2 月 28 日現在、内閣府、仮

認定含まず)

全国: 47, 299 団体 埼玉県: 1, 532 団体 全国:326 団体(全国 NPO 法人の 0.7%) 埼玉県:6 団体(埼玉県 NPO 法人の 0.4%)

NPO 法人は 1998 年の NPO 法以来、全国で数多くの法人が認証されてきましたが、その中でも認定 NPO 法人がほんのわずかであることが示されています。

この「<u>認定</u>特定非営利活動法人(以下認定 NPO 法人)」とは、所轄庁(IV-JAPAN の場合はさいたま市)から「認定」を受けた「認定 NPO 法人」であり様々な**税制面**(所得税、法人税、相続税)での優遇措置が適用されます。 具体的には、皆様がご負担頂いています正会員費を除く、奨学金・運営費等のご寄付は、確定申告により税制上の**優遇措置(寄付金控除等)**を受ける事ができます。

皆様からのご寄付に対して、<u>当会から発行する領収書は確定申告時の寄付金控除を受ける際に必要となります</u>ので、確定申告時まで大切に保管して下さい。

#### 〈寄付金控除について〉

個人が4月1日以降に IV-JAPAN に寄付をした場合、確定申告をすれば税金の還付を受ける事ができます。

(1) 所得税 (下記①、②の有利な方を選択できます)

①所得控除の場合

(寄付金の合計額-2,000円) =所得控除額

※寄付金の合計額は所得金額の40%相当額が限度

## ②税額控除の場合

(寄付金の合計額-2,000円) ×40%=税額控除額 ※寄付金の合計額は原則として所得金額の40%相 当額が限度

※税額控除の合計額はその年分の所得税額の 25%相 当額が限度

### (2) 住民税

都道府県もしくは市町村が条例で指定した場合

寄付金控除の対象となります。自治体により異なりますので、詳しくはお住まいの市町村の徴税窓口か都 道府県県税事務所へお尋ねください。

準備段階から申請書類作成、申請書類審査、実態調査と長い間、大変ご苦労様でした。冨永さんのリーダーシップ、理事会の承認バックアップ、日本事務所およびラオス事務所スタッフなど、チーム IV-JAPAN の総合力によるものです。何より、実績を積んできたIV-JAPANの25周年の歩みとそれを支えてきた多くの支援者の賜物といえます。これからが本番です。認定法人には免税の特権と共に情報公開や会計処理など責任も伴います。まずはホッとしました。 加藤陽一

(ボランティアで認定申請業務に携わって頂いた加藤氏には大変お世話になりました。ありがとうございました。)

## 彩の国さいたま国際協力基金事業完了報告

2012 年度も昨年に引き続き、彩の国さいたま国際協力基金 (SIA事業) より、事業費用総額の約半分にあたる 31万5千円の助成金をい

寄贈された新しい机とベンチ で授業を受ける子供たち

ただき、シェンクワン県ナムトム小 学校の校舎修復と学校備品(生徒用



学習机・ベンチ 20 セット、教師机・椅子 3 セット)の寄付を行いました。シェンクワン県には山岳民族が多数居住しており、教育環境はヴィエンチャンの都市部に比較するとかなり悪く、不完全小学校(全学年がそろっていない)も未だ多数存在します。今回校舎修復を行ったナムトム小学校は、村民がお金を出し合って建てた学校でしたが、資金不足のため 3 教室しかなく、屋根のトタンもさびて雨漏りがする状態でした。今回の助成金による校舎修復、及び教育設備寄贈により、教育環境が大幅に改善され、同校の生徒や教師らは「快適で清潔な場所で勉強ができてうれしい」と喜んでいました。

## 外務省·日本 NGO 連携無償資金協力事業

## ―ナーサイトン職業訓練センタープロジェクト・2年次終了―



トレーナーの実演を見入る美容コースの生徒

外務省からの支援を受け、昨年3月より開始した2年目のナーサイトン職業訓練プロジェクトは、1年間実施され今年2月末に終了しました。1年目から通算して3、4期目となる職業訓練を中心に行い、縫製、理美容、調理の三分野で初級レベルを2ヶ月間、中級レベルを3ヶ月間実施しました。年間を通じ3分野で132名が訓練を修了しました(初級レベル132名、中級レベル110名)。このうち23名はIVの上級コースで訓練を継続し、多くの人たちは就職または自宅で起業をしました。しかし、中には他の学校に進学する人や育児などで仕事ができない人、連絡が取れずどうしているか分からない人もいました。

普段の職業訓練はトレーナーが指導をしますが、短期の専門家の 方に協力して頂き、より充実した訓練を実施することができました。

日本からは、1年次同様、日本料理の高倉様に指導して頂きました。 美容では、以前、ボランティアとしてお手伝いして頂いた早川様が わざわざロンドンからお越しくださいました。その他、タイからは 職業訓練短大等で長年の指導歴を持つ美容師の方に、ラオスからは 紳士服、美容、マッサージ、ラオス菓子の経験豊富な方達に指導し て頂きました。施設面では、校舎の裏側に屋根付駐輪場を建設しま した。これにより、生徒の貴重なバイクが雨季の雨や乾季の強い直 射日光を避けられるようになりました。

現在、3年次の開始に向けて準備中です。3年次終了後にはナーサイトン郡教育課が職業訓練校を引き継ぎ運営していくので、3年次は職業訓練の実施だけでなく、教育課の運営能力も強化していきます。



ブラウスの作成に励む縫製コースの生徒

## JICA 草の根パートナー事業



きのこを使った特製弁当

2013 年 3 月 28 日、第 11 期上級コースの修了式が第 12 期中級コースの修了式と合同で行われ、29 名の生徒が上級コースを無事修了しました。今期は特に 10 月から 2 月まで外語大ラオス語学科の大学生・柳沢さんがインターンとしてラオス事務所に実習に来ており、英語のテキストやカスタマーサービスのレクチャー用教材作成等を手伝っていただきました。同世代の生徒たちともすぐに仲良くなり、賑やかで楽しくトレーニングを実施できました。また、特に調理コースは乾季のこの時期イベントが多数行われたため、飲食店ブース出店の機会に恵まれました。さらに、3 月 14 日には同じくラオスで活動する NGO の AAR「難民を助ける会」と協働し、同会の行う障害者支援プロジェクトで栽培しているきのこを用い、「きのこフェア」を開催しました。この日のためにマ

ネージャーと調理コースのトレーナーできのこを使ったメニュー(きのこ茶わん蒸し、きのこ混ぜご飯、きのこ佃煮、きのこ天ぷら、きのこ大根おろし和え)を考案してもらい、試食会も行うなどして本番に臨みました。当日はメーリングリストなどを利用した事前告知もあり、JICAの職員の方など約50名を超えるお客様にご来店いただき、予想外の大混雑に厨房もてんやわんや。おかげ様で用意していたきのこメニューはあっという間に完売し、お断りしなければいけないお客様も出たほどの大盛況でした。

## 夢屋マイクロファイナンスローン

長年のドナーでいらっしゃる大野宏江様が、昨年 11 月のスタディツアーに参加され、当会及び職業訓練所を訪問されました。その際に、『ラオスの若者たちを支援したい』といただいた寄付金でマイクロファイナンスローンプロジェクトを開始致しました。大野様が経営していたお店の名称をいただき「夢屋マイクロファイナンスローン」と名づけ、当会の職業訓練所上級コース卒業生を対象に、自身で起業するための資金として年利4%のローンの貸付を行っています。その利用者第一号となったのが、第 10 期美容上級コースの卒業者、ワンさんです。彼女の家はヴィエンチャン中心部から 150km 北へいったヴァンヴィエンという街にあります。ワン

さんの夢は自分のお店を開くことと上級コースで学んでいると きからずっと話していましたので今回のローンで夢の実現のお 手伝いをすることができました。

ローン開始後2ヶ月半たった2013年2月7日、彼女のお店の様子を見学するため、車で片道3時間かけてヴァンヴィエンを訪れました。「まだ家の改装が完全に終わってないからあまり綺麗じゃなくて恥ずかしい」と彼女は言っていましたが、広々としていて既存のものをうまく有効活用しており、アットホームで好感の持てる雰囲気でした。現在はラオスでは結婚式シーズンなので、パーティーに行くためのヘアセットやマニキュアなどの客が多いとのことで、客の家に出張でヘアセットに行くこともあると話してくれました。頑張って働いてもっと店を綺麗にしていきたいと抱負を語ってくれました。



娘と父親と、冨永代表と一緒に

## 千客万来

- ●AEPF9 (第9回アジアヨーロッパ市民フォーラム) NGO 代表団 2012 年 10 月 18 日 昨年 11 月にヴィエンチャンで行われた第9回アジアヨーロッパ首脳会議(ASEM9)に先立ち、ヴィエンチャンで開催された第9回アジアヨーロッパ市民フォーラム(AEPF9) に参加した各国の市民団体のご一行様が当会のミズキ職業訓練センターを訪問されました。簡単にパワーポイントで当会の活動内容を紹介した後、店舗内を見学していただきました。1 時間もしない短い滞在でしたが、やはり各国を代表して市民フォーラムに参加されている方々なので、活発に質問も頂き密度の濃い訪問となりました。
- ●麗澤海外開発協会スタディツアー 2013 年 2 月 8 日 毎年いらっしゃってくださっている麗澤の皆様、今年は副会長の竹原先生をはじめ 9 名でご訪問いただきま した。竹原氏は当会代表の冨永と 20 年以上前からの知り合いで、革命時代の話や、社会主義国家としての ラオスという国についてなど、貴重な話を伺う事ができました。
- ●JICA パートナーシップセミナー 2013 年 2 月 11 日 国際協力に関わる市民社会のアクターである NGO、自治体、企業、大学等からの参加者が、JICA の実施する 現地事業に対する理解を深める、という同プログラムの参加者計 23 名様が、JICA の草の根事業を実施して いる団体の一つとして当会を訪問されました。 当会活動紹介後に OJT での松花堂ランチを召し上がってい ただき、ランチの後はマッサージやネイル、シャンプーなどの体験や、縫製コースの生徒達の作品を購入し ていただいたりしました。
- ●立川 I T交流会 2013 年 2 月 22 日 同会は、ラオスやベトナム・中国からの研修生の受け入れ等、IT 分野での海外交流を積極的に行っており、 ラオス視察も毎年いらっしゃっているとのこと。当会の職業訓練について知りたい、と 5 名様で訪問いただきました。訪問団の中には、かつて JICA の専門家としてラオスに滞在されていた ■■■

きました。訪問団の中には、かつて JICA の専門家としてラオスに滞在されていた こともある方もいらっしゃったり、皆様ラオスびいきの方が多く OJT レストラでラ オス料理を食べてリラックスした雰囲気の中、当会の活動について紹介させていた だきました。

●ルアンパバーンガイドのイェンちゃん家族 2013 年 3 月 25 日 スタディツアー参加者の皆様におなじみの、ルアンパバーンのモン族の日本語ガイド、イェンちゃんが 0JT2 店舗を家族で訪問してくれました。日本語もとても上手で彼女の心のこもったホスピタリティにはファンが多く、IV-JAPAN のスタディツアーはいつも彼女を指名しています。写真の 2 歳の長男の名前は「勇太」と言い、冨永代表が名付け親です。 戦勝記念塔で待ち合わせたイェンちゃんとご長男→



# カノック授学金ニュース

## 宗像・邦司さん

宗像さんは 1994 年より奨学金ドナーに登録いただき、20 年近くご協力いただいております。宗像さんで思い出すのは、日比谷公園で毎年開催されている「グローバル・フェスタ」に福島からいらして、「この人と結婚します」とお嫁さんを紹介してくださった事です。3 人のお子様に恵まれ、PTA の会長として活躍なさっていらっしゃったとお聞きしています。一昨年の東日本大震災の影響でいまだに避難先生活を強いられておられ、そのような大変な中、継続して奨学金をお送りくださっています。本当に頭が下がる思いです。心より感謝申し上げます。

IV-JAPAN 創立 25 周年を迎え、本当におめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。思い起こせば冨永さんとお会いしたのは、私が海外派遣事業の役員をやっている時に福島で開催した研修会でご一緒させていただいた時が最初だったかと思います。あれから IV-JAPAN の活動に興味を持ち、「身近にできることから」基本にかかわっていきたいと考え、タイ、ラオスの農村青少年のためのカノック奨学金やスタディツアーへの参加などしてきました。

特にカノック奨学金については、IV-JAPANが責任を持って管理・運営し、使い道も 明確にされているので安心感があり、奨学金生からは手書きの感謝の手紙が届き、自分の援助が少しでも役立っている事を実感しています。これからも IV-JAPAN を「身近にできることから」応援していきたいと思います。



## <sup>かすが</sup> 晴さん

春日さんは 2001 年より奨学金ドナーに登録いただきました。以前東京四谷でバーと、六本木のラオス大使館の傍でアジアの布地屋さんを営んでいらしたそうです。右写真はラオスで織物業を営むニコンさんと。



私が、IV-JAPANを知ったのは、というよりも冨永さんを知ったのは15年程前で、当時私がやっていた四谷のバーのお客さんからでした。私はバーだけではなく、アジアの布を扱う店もやっていたので、ラオスの布に興味があるから一度行ってみたいな、などと店で話していたのをそのお客さんが聞き、ビエンチャンに良く知っている人がいるから、行くんだったら紹介するよ、ということで紹介されたのが冨永さんだったわけです。それで、厚かましくもビエンチャンの事務所におじゃまし、ラオスの布事情やショップを紹介していただき、案内してくれる方までつけてもらっていい買い物ができたというのが、冨永さんとのおつきあいの始まりでした。

その時に IV-JAPAN を知り、冨永さんのまさに八面六臂の活躍も見て、ラオスに縁もゆかりもない一日本人が、ここまでの組織をつくり、無償の活動ができるものなのかと、感動を覚えたものです。で、何か私にでもお手伝いできることはないかと探していたところ、IV-JAPAN にドナー制度なるものがあるのを知り、小額ながら参加させていただくことにした次第です。

毎年送られてくる Thanks Letter が楽しみで、ラオスの田舎から出てきた、たぶんそんなに豊かでない若い娘たちががんばっている姿に触れると、思わず「がんばれよ」と声をかけたくなってしまいます。一人でも多くの女性が手に職をつけて、ささやかながらも確かな将来を築いてほしいとねがっています。そのためにも、富永さんはじめ、IV-JAPAN の皆さまのますますのご活躍を期待しております。



## タイ・ニュース



## 美容専門家をタイから招聘

職業訓練校の美容技術およびトレーナーの指導力の向上のために、タイから美容専門家を招いてトレーニングを行いました。3月11日(月)から3月29日(金)までの3週間、タイのウドンタニから美容師のチュアンピス先生にお越しいただきました。チュアンピス先生は美容師として30年以上のご経験をお持ちで、彼女の経営するチュアンピスビューティースクールは27年の歴史をもつ高い評価を得ている美容学校です。毎年150人の生徒が当校で学んでいます。チュアンピス先生はヘアカットや最新のスタイリング技術など、様々な技術をわかりやすく丁寧に教えてくださいました。トレーナーも生徒も食い入るように先生の手の動きを見つめ、説明を熱心にメモを取るなど、真剣に学んでいました。専門家による3週間みっちりのトレーニングはとても充実しており、普段はゆったりとしている生徒たちもいきいきとしていました。



美容師のチュアンピス先生

最終日 29 日(金)にはこれまでの美容コースの卒業生に声をかけ、新しいヘアスタイルのトレーニングを行いました。参加者は 10 名程度となりましたが、最新の技術を学べるということで皆とても喜んでいました。片道 3 時間もバスに揺られて参加した 15 歳の卒業生も背丈が大きくなり見違えるようでした。ほとんどが美容院を起業していて、熱心に次回も是非こういう機会がほしいと言っていました。昼食はOJT食堂で後輩の作ったラオス料理とお菓子に舌鼓、会話も弾みました。中にはラオスの月刊誌に取材されて、自慢げに皆に雑誌を回覧する卒業生もいて、社会で活躍が認められ、とてもうれしいことでした。これからも卒業生が情報交換をしたり親睦を深められる機会を設けたり、生徒たちの間にも浸透してきた Facebook などを活用して、卒業生のネットワークをつくっていけたらいいなと思います。 IV-JAPAN で学んだことを誇りに思える、生徒と強い絆で結ばれた学校にしていきたいと思います。

## IV-JAPAN タイ財団理事会風景



---2013 年度 IV-JAPAN タイ財団理事会開催---

3月31日にタイ国ガールスカウト会館会議室で6人の理事の出席のもとに理事会が開かれ、2012年度の事業活動報告、決算報告、監査報告が承認され、2013年度の活動・予算も承認されました。今年度から財団住所はタイ国ガールスカウト連盟内(バンコク市パヤタイ)に変更されました。財団役員は会長:ラダ、副会長:冨永、書記:パニー、会計:ルーシー、理事:ピティガン、ヴァライコーンの6名。5月にはピブン福祉財団および奨学金生宅訪問、来年4月にはチェンライ奨学金生訪問が決まりました。写真は財団理事会の様子。

# 幸子のラオス便りMo.23

## ≪ラオスは社会主義国≫

ラオスが社会主義の国だとういうことを知っている人は少ないかもしれません。それほど人々の暮らしは穏やかで、のんびりしていて、仏教が日常に生きていて、お祭りが好きで、事あるごとに皆で集って食べ、飲み、踊りや歌が大好きです。

ラオスのお正月は4月14日~16日の3日間です が、今年は土日が入り今日(放送日)から5連休に なりますが、4月はどこも官庁も会社もお祭り気分 で仕事になりません。商店は音楽を流して道路まで はみ出して踊る人、別名「水かけ祭り」と呼ばれる ように、道行く人にバケツで水をかけたり、ホース を出してきて水を勢い良く流して人や車にかけま す。そう、4月は1年で一番暑い季節で、かけられ た水は気持ちよく、濡れた衣服はすぐ乾きます。子 どもたちも水鉄砲やおもちゃのバケツで道を行く 人を狙って誰かれなく水をかけます。この時期の旅 行者は気を付けないとあちこちから狙われてびし ょびしょになります。水かけの本来の意味は今年も 雨に恵まれ田植えができますようにと豊作を願い、 1 年が平安で健康で幸せに過ごせますようにとお 互いに水をかけあったのですが、仏教の影響で水に 香りの良い花を入れた香水を仏像にかけにお寺詣 りをするようになりました。

また、お世話になった人たちにバスケットに収まったお菓子やお酒などのセットを届けるのが習慣です。私の事務所でも一緒に仕事をしているカウンターパートの教育省や外務省の担当部局にバスケットを持って新年のご挨拶に伺います。

### ≪1995 年建国の若い国≫

また、ラオスは 1975 年に建国された若い国というのもあまり知られていません。1975 年の革命以前は王国でしたが、1954 年から北のサムヌアに共産党の革命本部が置かれていました。実際革命本部が一般に公開されたのが 2003 年ごろかと思いますが、行ってみて驚いたのは、洞窟が点在し、その1つの洞窟に本部があり、何本もの道が迷路のように作られ、ほとんどの家具や食器などは湿気で錆びていました。毒ガスにも対応できる部屋もありました。レッドプリンスと呼ばれ革命後初代大統領となったスパヌボン殿下の長男は当地で戦死しています。

最近サムヌアの洞窟で 1968 年に子どもを出産した女性に出会いました (ページ下写真)。旧政権時代に夫はフランスで医学の研修生、彼女も助産婦学

校の学生で、1963年にパリで結婚、夫婦とも旧ラ オス政府の奨学金でフランスに来ていたので、65 年にラオス革命に参加するため帰ることになりま したが、反政府運動を続けているとパスポートを没 収され、ラオスへは帰国できないので、幼子を連れ てパリからモスクワへ、北京で2人目の子どもを出 産し、そこからヴェトナムのハノイに行くことがで きました。ハノイでは8人のラオス人学生と合流し、 一戸建の家で一緒に生活しましたが、毎日の爆撃で 落ち着くどころではなく、朝1食だけの生活で煮炊 きの煙を出さないようにしたそうです。ようやくラ オスのサムヌアへ行くことができたのは68年でし た。ところが、パリとは 180 度違うサムヌアの洞窟 の生活に戸惑いながらも、3人目の子どもを洞窟で 出産しました。パリから戻った学生たちはラオスを アメリカの支配で、再びフランスの植民地時代のよ うにしてはならないという思いが強く、弱音を吐く 人はいませんでした。約100家族が洞窟で共同生活 していましたが、部屋の仕切りもなく、電気も水道 もなく、B52 爆撃弾に毎日さらされてせっかく作っ た野菜も食べられなくなりがっかりしたと。ストレ スもたまりお乳も出ないし、キャッサバと芋ばかり の朝食1回だけの食生活だったが若い女の子は皆 妊娠していたと笑いながらいいます。夫婦は医者と 助産婦だったため、朝は5時に起きて9時までの4 時間を各地の洞窟を回り、負傷者の手当てをしたが 毎日たくさんの死者を見たが何もできなかったと。 約9年間の洞窟生活でしたが、子どもは皆何とか育 ち、革命後3人目の子どもはフルブライト留学生に なりアメリカへ渡ったが、健康診断で何の予防接種 もしていなくて、アメリカのお医者さんがびっくり したと。革命政権では夫婦は数少ない知識人でした ので、夫は大臣にまで出世し、彼女も青年同盟の幹



ブアケオ・ダラロイ女史

部として国際会議で活躍し、32 カ国を訪問したということです。

## ≪世界中にラオス難民が≫

この方とは逆に革命のため体制が変わり国を出た人もたくさんいます。埼玉県の大宮にラオス難民約 300 人が住む難民村がありました。日本全国では約 2000 人のインドシナ難民がいます。

その一人に私が親しく付き合っていた人がいました。彼女は旧政権の時代の公務員だったので、革命政権になってからつかまるのを恐れて、夜陰にまぎれてメコン川を泳いで渡ってタイへ逃れたとのことです。タイの難民キャンプを経て、日本にきま



サムヌアの洞窟。当時電気はありませんでした。

した。難民同士で結婚して2人の子どもを設けましたが、離婚して、一人で2人の子どもや幼い兄弟3人を育てました。弟は難民で初めて埼玉大学を卒業しました。長年の苦労がたたって気の毒なことに6年前に病死しました。それもラオスを出てから初めて20数年ぶりにラオスに一時帰国する1か月前のことで、航空券も購入済みでした。私も離婚を経験していますが、年取ったら一緒に住もうと言ってくれていました。

当時難民で出国した人たちが世界各地にいますが、現在 60 歳前後になり、ラオスに帰る人が増えています。現ラオス政府も世界各地の難民からの送金額もばかにならない外貨ですし、祖国を思って学校建設をはじめ、難民からの援助を多く見かけます。元ラオス人には特別の入国査証が発給されて帰国しやすくなりました。また元ラオス人たちもやはり祖国が懐かしく、ビジネスを始める人もたくさんいますが、特に4月の新年や11月のタットルアン祭りには世界中のラオス人が一時帰国します。とにかく誰でもそうと思いますが、年をとればとるほど故郷は格別です。

## 「お菓子作りで成功した 2001 年卒業生」

偶然 2001 年の調理コース卒業生チャンティさんに 10 数年ぶりで会いました。上級コースはヴィエン チャンの2カ所(OJT①、OJT②)にあります が、OJT②は中心地より3キロ地点の職業教育開 発センター(VEDC)の敷地内にあります。彼女 は職業教育開発センター主催のセミナーで供する お菓子の注文を受けて配達に来たところで、ばった りお会いました。第1回の調理コースでお菓子を習 い、すぐ自宅で起業しました。働き者で、朝5時に は市場へ行って、ココナッツミルクを買いに行き、 家に戻ってお菓子を作り、3人の子どもを学校に送 り、それから、お菓子の行商をしに街へ出て路上で 売っていました。売れ残ると訓練センターへ持って きて生徒たちに売っていました。販路を広げてスー パーやホテルに卸し、卒業生を雇い、ココナッツミ ルクを搾る機械も購入して、商売を大きくしました。

一番上のお子さんは 17 歳にもなるといいます。今は人を雇わず子どもたちが手伝っているとのことです。成功した卒業生を見ることはとてもうれしいことです。また、そういう人は皆とても働き者だということです。



チャンティさん(右)と冨永

## 

## ♡♡ カノック奨学金ドナー紹介♡♡ (2012/10/16 から 2013/3/31 まで) 順不同

小林愛子(2 口)、佐藤美津子(6 口)、小野寺さとみ(10 口)、伊藤裕子(6 口)、James Cummings(2 口)宮下ひとみ、森 典子、飯田昌美、大高 巽(2 口)、塩川悠子(2 口)、太田榮次(3 口)、岩月優子又吉ミチ、近藤利雄(2 口)、根橋淑江、西条喜子(2 口)、座安きくえ、松茂良米子(2 口)、泉 久子(2 口)ガールスカウト大阪府第61団、ガールスカウト千葉県第45団、伊東慶子、宮村 肇(10 口)、蛭間愛子奈良伊世、春日 曠、高石順子、津本蓉子、菊原享子、比嘉エリ子、小田切智子、石井有美、大橋國江(2 口)佐々木孝子、賀元澄子、小林佳代子、高見沢啓二、宗像邦司、福永文代、上原道子、大野宏江(3 口)大野歩・望、早坂弘子、石井直子、添野ふみ子、三澤純子(2 口)、みどり幼稚園みどり会(14 口)利根川恵子、足立毅平

## ❤運営・プロジェクト費寄付者一覧♥

(2012/10/16 から 2013/3/31 まで。順不同。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。) 大野宏江(30万円)、栗林 聡(10万円)、バンサトリー(10万円)、IV スタディツアー参加者(7万5千円) 金野喜久子(5万円)、橋本直勝(5万円)、松尾志朗(5万円)、小宮哲朗(3万円)、麗澤海外開発協会(2万円) (有)イチカワ北海食品(1万円)、上田義朗(5千円)、池上洋子(5千円)、井藤憲明(5千円) 山内文子(5千円)、森田豊則(5千円)、吉野貴美子・斎藤加代(\$200)、オールセイフーユニオン(\$200) 大滝美佳(\$800)、指山亜希子(696,500kip≒7万円)、Mr.AnthonyWong(\$135)、

## ~25 周年記念行事寄付者一覧~ 順不同

藤田廸枝(5万円)、横山三重子(3万円)、高倉昌子(2万円)、宮澤雅博(2万円)、片岡康博(2万円) 麻沼雅海(1万円)、難波隆二郎(1万円)、杉本浩二(1万円)、森重かをり(1万円)、吉野美智子(1万円) 大矢和子(1万円)、福井寛(1万円)、(株)東京田事(1万円)、豊田利久(1万円)、桜井福子(1万円) (社)倫理研究所(1万円)、吉野貴美子(1万円)、大竹千歳(1万円)、斉藤加代(1万円)池田敏秀(1万円)、坂本秀美(1万円)、富永幸子(1万円)、福永文代(1万円)、南孝司(5千円)佐藤博芳(5千円)、藤井真由子(5千円)、木村朝(5千円)、並河理恵子(5千円)、佐復正雄(5千円) エアーインターナショナル(5千円)、片山純子(5千円)、中村雅子(5千円)、戸田千恵子(5千円)東藤和子(5千円)、井藤尚子(5千円)



#### <編集後記>

2/23 に IV 創立 25 周年行事を盛大且つ成功裏に終え(創立記念日は 5/1)、3/27 には認定取得の報を得て事務局もホッと一息の感。この四半世紀の IV (旧称・国際ボランティアの会)の発展を思う時、それは同時に沢山のドナーの方々、関係者の温かいお心遣いを思う時。長年会の事務局に携わって来た者にとってその関わりの中で、他では経験や知ることの出来なかったであろう多くの事を心に保存し、そのメモリーの容量に際限はない。「崇高」「無償」これらの言葉本来の意味を理解できた貴重な 25 年間でした。(事務局 井藤) IV を支え続けてくださる皆様に心より感謝申し上げます。

#### <随時会員を募集しています>

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

- ① 奨学金ドナー 年1口 12.000 円以上
- ② 国際協力費又は運営費ドナー ★個人 年1口 3.000円以上 ★団体及び法人 年1口 10.000円以上
- 申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名と会員番号の下4桁の明記をお願い致します)

郵便振替 : (口座番号) 00140-5-537168 **(加入者名) IV-JAPAN** (変更になりました)

銀行振込 :埼玉りそな銀行浦和中央支店 (※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。)

(普通) 口座番号:5038052 名義人:(特非) 国際協力 NGO・IV-JAPAN

## 日本事務所

〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2 シティヒルズ 101

TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612

E-mail: iv-japan@vanilla. ocn. ne. jp http://www6. ocn. ne. jp/~iv-japan/

### ラオス事務所

P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR TEL/FAX: +856-21-316047 携帯電話; +856-20-55515122 E-mail: ivjapan.vte@gmail.com